



2025年2月26日  
第154号

# JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一  
編集情宣担当  
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

## イーハトーブ

2月25日号

2025年は「戦後80年」。私はこの言葉に違和感を抱いている。大軍  
 拡化において、戦争が出来る国へと回帰した日本、台湾有事に備えたミサ  
 イル配備や極めて実戦に備えた他国との合同訓練、昨年3月には石垣島  
 や宮古島ら五つの市町村に住民を守るためのシェルター設置方針が決ま  
 り、準備が進められている。私たちの暮らす日本は「戦前」であることを、  
 どれだけの日本人が本気で受け止め危機感を抱いているか。

「80年」という年月は長いのか短いのか。私たちは毎年一月に、「現地に  
 赴き、学び感じる」ことをテーマに沖縄平和研修を開催している。研修で講  
 演をいただいていた元白梅学徒の中山きくさんは「命どう宝、平和が一番  
 大切」「人類にとって戦争は悪であり、忌むべき行為である」と実体験から  
 戦争の悲惨さを伝え、平和や命の尊さを訴え続け、2023年1月にこの  
 世を去った。「80年」という時間で、あの沖縄戦を体験された「生きる証」  
 は失われていく。当然ながら重みは違えど、私たちに与えられた使命は  
 「語り継ぐ」こと。私は諦めずに語り継いでいく。

国会前での「19日行動」に参加しても高齢の方の姿が多く、この時代に  
 平和運動に興味を持ってもらうこと、広げる難しさの中で、私に出来ること  
 は研修を通じて、参加者の心に訴えかけること。一人ひとりが「反戦平和」  
 を願うのではなく、「平和な世界」をつくるために行動、実践していこう。  
 仲間とともに。(K・K)

### イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中  
 にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私た  
 ちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信  
 を行っています。